



学生が八戸市の中心街活性化に向けたアイデアを披露した報告会。30日、同市の「はっち」

マチニワ周辺活用、「横丁」整備

中心街活性化へ提案

八工大生、研究成果報告

八戸市などと共同で中心街の課題解決に取り組んでいる八戸工業大は30日、同市の「はっち」で、本年度の研究成果の最終報告会を開いた。学生たちがマチニワの隣接地にコンテナショップを整備するといったア

イデアを披露し、中心街活性化に向けた方策を提案した。同大は2016年、市と第三セクター「まちづくり八戸」と、中心街の課題解決に向けた連携協定を締結して以降、毎年市側が示した課題について調査や研究を行い、解決策を提言している。

本年度のテーマは、マチニワ周辺の活用策や中心街に点在する「横丁」の整備など6項目で、昨年9月から研究を始めた。

最終報告会では、学生が▽アスファルトが劣化している横丁の道路の補修▽マチニワ隣接地へのコンテナビルの整備▽横丁の視認性向上のためフットライトの設置―といったアイデアを提言した。

市まちづくり文化推進室の前田晃室長は報告会后、「(土木などの)技術的な視点を持って意見を出してもいい、有意義だった。一朝一夕では実現できないアイデアもあったが、今後も中心街に関心を持ってもらえれば」と述べた。(福田駿)